

ふくいじょう

- 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査は、国際交流会館建設工事に伴うものである。遺跡は、福井



紀後半、一九世紀の各期に

集中する。

時に混入したと考えられる。

木簡は土坑一七九から四〇点、土坑二三〇から三点、溝一一二か

8 木簡の釈文・内容

土坑一七九

- (1) 「しろこしもの」

・「しろこしもの」

132×19×2 051

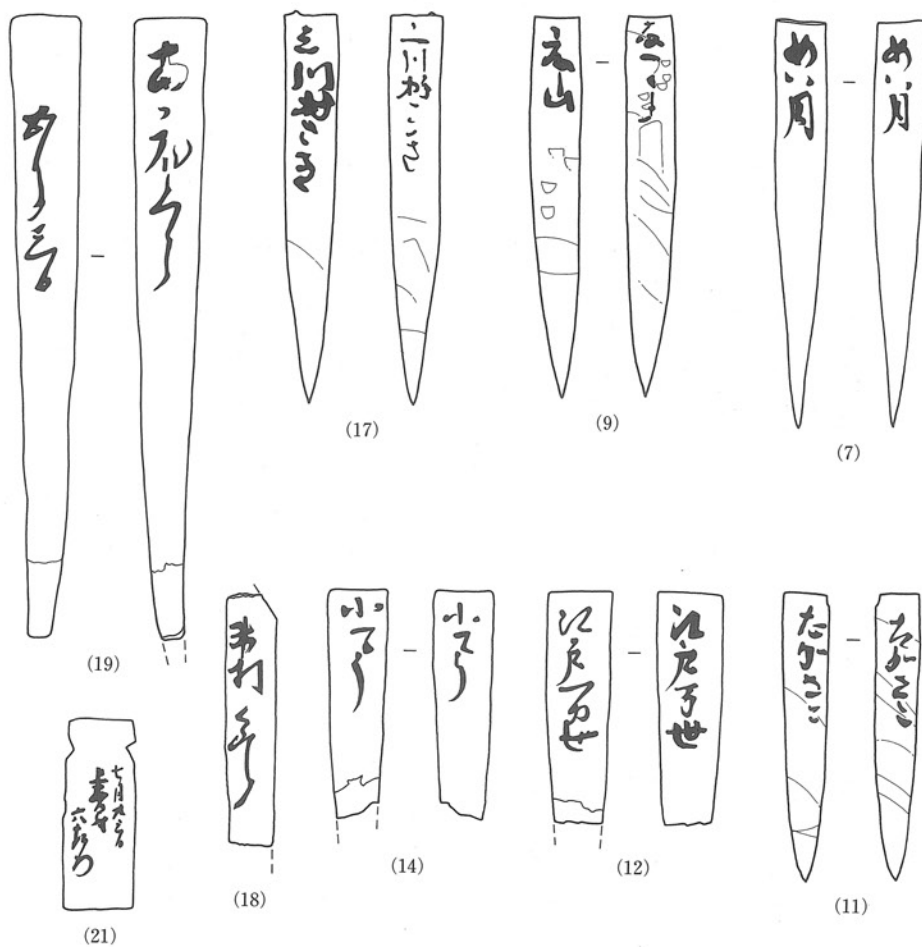
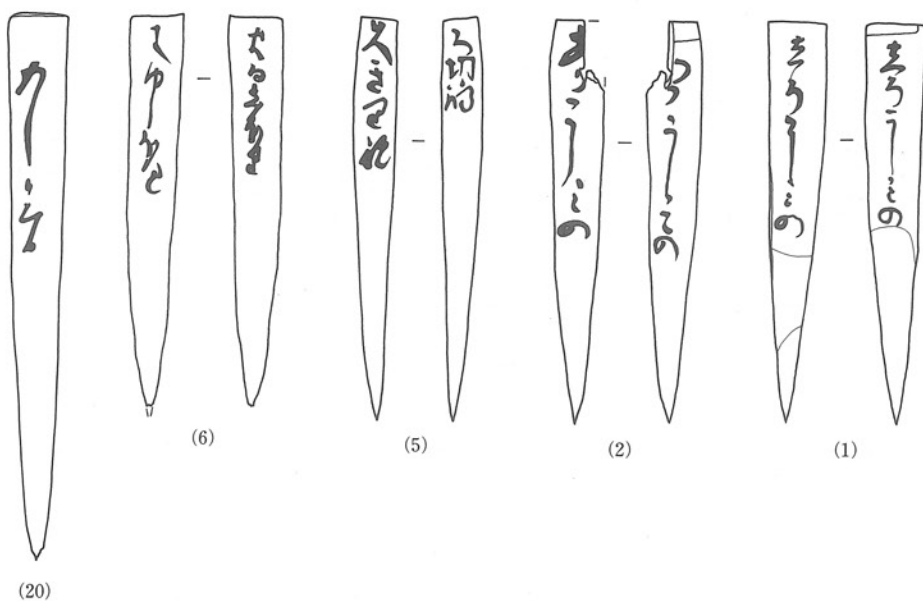
(2) 「あ□こしもの」

(2) 「あ□こしもの」・

・「あ□こしもの」

132×18×3 051

(3)	・「あ□□□この」 ・「あ□□□この」	126×18×3 051	(11)	・「たかさこ」 ・「たかさこ」	94×15×2 051
(4)	・「大切嶋」 ・「大切嶋」	(54)×15×2 019	(12)	・「江戸万世」 ・「江戸万世」	(76)×22×3 019
(5)	・「大切嶋」 ・「大き嶋」	131×14×3 051	(13)	・「江戸万世」 ・「□□」	101×12×3 051
(6)	・「はるしほり」 ・「はるしほり」	(127)×18×3 051	(14)	・「小てう」 ・「小てう」	(75)×20×3 019
(7)	・「めい月」 ・「めい月」	133×16×3 051	(15)	・「ぎんだ」 ・「ぎんだ」	137×17×3 051
(8)	・「めい月」 ・「めい月」	103×11×4 051	(16)	・「とひ入」 ・「とひ」	(100)×11×4 051
(9)	・「なつやま」 ・「夏山」	125×17×3 051	(17)	・「三川 ^{〔村カ〕} やみ」 ・「三川村やみ」	128×17×3 051
(10)	・「なつ ^{〔山カ〕} 」 ・「なつやま」	109×11×3 051	(18)	・「末村□□郎」	(83)×(17)×3 039



土坑二〇〇

(19) ・「あ□□くら

・「五月三日

(206)×24×3 051

(20) 「五月三日」

181×20×3 051

溝一二二

(21) 「く七月廿三日

上安田村

六左衛門」

64×24×4 032

土坑一七九出土の木簡は(18)を除き、完形のものはずべて下端を尖らせた〇五一型式で、物品名らしき文字を書くが、何の名称なのかは未詳。

なお釈文は、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館の佐藤圭氏のご教示を得た。

9 関係文献

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター『年報一〇』(一九九六年)

(本多達哉・河村健史)

石川・観法寺遺跡
かんぼうじ

1 所在地 石川県金沢市観法寺町

2 調査期間 一九九九年(平11) 五月～八月

3 発掘機関 財団法人石川県埋蔵文化財センター

4 調査担当者 松浦郁乃・荒木麻理子

5 遺跡の種類 集落及び道路跡

6 遺跡の年代 三世紀・八世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本遺跡は、金沢市の北東部に位置する。北西方向には河北潟が広がり、北は能登、東は低い丘陵地帯を越えると富山県となる。後背



(金 沢)

丘陵上には観法寺古墳群、その谷部には中世の観法寺谷遺跡が存在する。周辺の同時期の遺跡としては、北方約八〇〇mに七世紀末～八世紀前半の今町A遺跡が存在する。

今回は、約二五〇〇m²について調査を行なった。そ